浄泉寺の花御堂（はなみどう）　－お釈迦様のお誕生をお祝い－

浄泉寺報

第 20 号
２０２０年
春彼岸

本当のものがわからないと、本当でないものを本当にする。

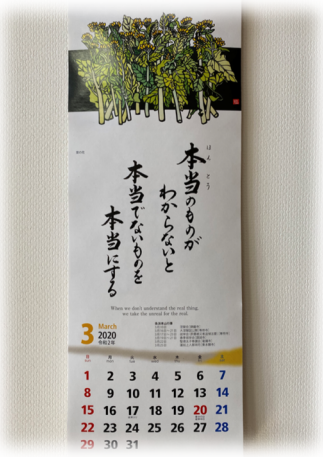
浄泉寺住職　望月廣三

お寺から渡された今年のカレンダーを見てください。三月の言葉です。

これはどういう意味なのか、何回かに分けてお話しします。まず、「本当のものがわからない」と言われるが、本物なんて解らないのが人間ではないのですか。簡単に解るものならば誰も悩んだり苦しんだりしませんよ。解らないから苦しんだり悲しんだりするんですね。

しかし、このことは本当に不思議で、とことん苦しみますと、苦しみから抜け出せることができるのも、事実なのです。人間の本音からは「この世は楽しく生きて、死ぬときは楽に」ですね。誰でもそう願っています。ところが現実は、その真反対ですね。楽しいこともありますが、苦しいことのほうが多いです。しかしこの世は苦があり楽あり、ですよ。苦があるから楽があるのですね。苦を知らない人には楽はないでしょう。一生楽な人なんて、この世には一人もいないと思いますが、もしいたとしたら、その人はなんと不幸な人でしょう。なぜなら、苦を知らないのですから、いまの幸せがわかる道理がありません。なんと自分は不幸者なのだと、ずっと嘆いてばかりいることでしょうね。本物を知る、ということの意味が、ここにもありますね。

（つづく）



2020 年 3 月の法語カレンダー

浄泉寺からのお知らせ

● 花まつり ●

五月十日（日）午後二時～

お釈迦様のお誕生をお祝いする花まつりです。

どなたでもご参加いただけます。

お子さんやお孫さんとご一緒に、ぜひお参りください。

大人の方のお参りも大歓迎です。

お子さんには記念品を用意しています。

● 同朋（どうぼう）会（かい）●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職による法話の後、皆さんでお茶を飲みながら語り合います。

どなたでもお気軽にご参加いただけます。月に一度はお寺で仏さまの話を聞きましょう。

今後の詳細な日程等の問合せは、浄泉寺まで。

- 若坊守のひとりごと -

以前、とあることで知人に「あなたのその行いは、因果応報で自分に返ってくるとは思わないのか」と言われたことがあります。私はずっと親や色々な人に迷惑をかけて生きてきました。そのたびに因果応報と考えていたら、きっとここまで生きてこられなかったと思います。そして、生まれてから誰にも迷惑をかけずに生きている人など、この世のどこにもいないと思います。

例えば私がいただく食事は他の命をいただくことで、しかも誰かが殺してくれた命です。食事一つとっても私達は必ず何かしら迷惑をかけて生かされています。そんな想いがあったので、冒頭の問いに「思わない」と答えました。

知人の目にはさぞや私は傲慢にうつるだろう、お説教されるかなと思っていたら、その人も自分の「迷惑な行為」を吐露し始めたので、なんだと可笑しくなってしまいました。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏（仏壇）に座る ⑱　～ 御文さん ～

「当時このごろ、ことのほかに疫癘とてひと死去す。これさらに疫癘によりてはじめて死するにはあらず。生まれはじめしよりしてさだまれる定業なり。さのみふかくおどろくまじきことなり」（[意訳] 近頃、伝染病で亡くなる人は多いけれど、仏さんの眼から教えられれば、伝染病が原因ではじめて死ぬのではなく、本当の原因は、人間に生まれたから死ぬということであって、そんなに驚くことではない）

蓮如上人御影

新型コロナウイルス感染症の拡大で、不安の渦巻く今、非常に厳しい言葉として私に響いてきます。これは、本願寺８代の蓮如上人が、浄土真宗の要を門徒衆に手紙の形で送り伝えた『御文』の中の一節です。（浄泉寺の法要で「正信偈」のお勤めの後、蓮如上人の御影の前で若院が拝読しているのが『御文』です）

令和２年(2020 年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成 31 令和元年(2019 年)亡
三回忌	平成 30 年(2018 年)亡
七回忌	平成 26 年(2014 年)亡
十三回忌	平成 20 年(2008 年)亡
十七回忌	平成 16 年(2004 年)亡
二十五回忌	平成 8 年(1996 年)亡
三十三回忌	昭和 63 年(1988 年)亡
五十回忌	昭和 46 年(1971 年)亡

仏教とは転ばぬ先の杖ではなく、人間の都合で未来を変えることができる夢のような教えでもありません。仏教は、激動の世の中にあって、浮足立つ私たち人間をまるごと映し出し、人間であることの足元をハッキリと教えてくれるものです。そこに嘘はなく、故に力となります。

お葬儀の後、火葬場から戻った時には「朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり」という「白骨の御文」がお骨を前に読まれます。

それは、亡くなった方が最後に教えてくれる人間の身の事実であり、それを教えることが、亡くなった方の仏様としての最初の仕事なのかもしれません。　（浄泉寺若院・釋亜世）

＜発行元・問い合わせ＞
真宗大谷派　楠林山　浄　泉　寺　　電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町４－３－４３
ホームページ http://jyosenji.asei.info